

# 栗原市病院事業経営健全化計画

令和元年度

— 重点取組事項等に対する点検・評価報告書 —

栗原市立病院経営評価委員会

【 所管：栗原市病院事業 医療局医療管理課 】



## 目 次

### 令和元年度重点取組事項等に対する点検・評価報告書

1 栗原中央病院の取組みに対する意見等	-----	1～2
2 若柳病院の取組みに対する意見等	-----	2
3 栗駒病院の取組みに対する意見等	-----	2～3
4 総括	-----	3
資料1 各委員からの意見、要望、提言	-----	4～5
資料2 令和元年度重点取組事項に係る自己点検・評価		
■ 栗原中央病院	-----	6～7
■ 若柳病院	-----	8～9
■ 栗駒病院	-----	10～11
《自己点検・評価の記載項目》		
1 病院の果たすべき役割（経営方針）		
2 取組実績に対する点検		
(1) 医療機能確保の視点		
(2) 財務の視点		
(3) 業務プロセスの視点		
(4) 学習と成長の視点		
3 収支計画及び決算（収益的収支）		
4 主な経営指標及び実績		
5 自己評価（病院総括）		
〔添付資料〕		
別紙1 市立3病院収支計画及び決算	-----	12～15
別紙2 市立3病院経営指標	-----	16～18
資料3 栗原市立病院経営評価委員会委員名簿	-----	19
資料4 栗原市立病院経営評価委員会設置要綱	-----	20

**栗原市病院事業 第三次経営健全化計画**  
**令和元年度重点取組事項等に対する点検・評価報告書**

栗原市病院事業から提出された「令和元年度重点取組事項に係る自己点検・評価」及び「決算関係資料」をもとに、第三次経営健全化計画における市立3病院の取組実績について点検を行った結果は、次のとおりである。

令和2年10月28日

栗原市立病院経営評価委員会  
委員長 平川 秀紀

## 1 栗原中央病院の取り組みに対する意見等

医師体制は、皮膚科医師が1名減となったものの、内科医師1人と放射線科医師1人をそれぞれ招へいし、年度末の常勤医師数は27人となった。同規模病院の常勤医師数が46人であることを考えると、少ない人数で、本当によく頑張っているという印象であるが、手術件数が減少しており、それがそのまま診療収入に影響していると考えられる。

救急医療に関しては、救急医療提供体制の確保に取り組んだ結果、令和元年度の救急車による受入人数は、前年度と比べ54人増えて2,212人という実績となっており、少ないスタッフで非常に頑張られたと評価する。このことは、断らない救急を実践し、地域の救急医療に貢献していることであり、市民からの信頼は厚く、徐々に収益増加にも繋がってくると期待できる。

平均在院日数が短縮している中で、結核病棟を除く一日平均入院患者数は、前年度と比較して12.3人減少している。これは、暖冬による影響や年度終盤の新型コロナウイルス感染症が影響しているものと推察するが、循環器内科が本格的に稼働してから3年が経過し、ある程度患者数の伸びは落ち着いてきていると思われる。

また、4月からは、県内の結核患者の受け入れ先として、感染制御センター29床の運用開始に伴い、県からの運営費負担があるものの、県の循環器・呼吸器病センターのスタッフ受け入れにより、退職手当組合等への特別負担金などにより増加があった。これは令和元年度の一時的なものと思われるが、医業費用のうち給与費が大幅な増額となっている。

病床利用率は61.6%で、計画値81.0%に比べ大幅に低くなっており、新型コロナウイルス感染症の影響が見通せない中で非常に難しいところではある。安定的な経営の

ためには、入院患者の確保も必要であるが、固定経費削減を並行して着実に実行していただきたい。特に委託料は、他の病院から見ても少し高めと思われるので、引き続き、経費削減・抑制に尽力願いたい。

病院機能面では、院内の転棟は、今後、診療点数が下がっていくと予想されるため、療養病棟や地域包括ケア病棟などは、若柳病院や栗駒病院と連携し、栗原中央病院から患者を送るなどの検討を行うことも必要と考える。

## 2 若柳病院の取り組みに対する意見等

医師体制は、整形外科医師1人を招へいたことから、常勤医師が4人体制となり、一日平均入院患者数は、前年度と比較して1.7人増の79人となったものの、経常収支比率が昨年度と比較し4.5%減少したことは、診療単価が低下しているためと推察される。

患者数の増加に向けた取り組みは非常に重要だが、地域の人口が減少傾向にあるなかでは大幅な増加は期待できないため、単価の増額に向けた取り組みが非常に重要であると考える。

既に、電子カルテシステムの導入や医療クラークの配置により診療記録管理体制の整備や地域包括ケア病床の導入など、診療単価増に向けて取り組んでいるところであり、今後この取り組みを強化していただきたい。

地域包括ケア病棟の導入については、地域にとっても必要なことであるが、稼働率をアップさせるためには、開業医や栗原中央病院、栗駒病院との連携を図り、在宅や急性期から紹介患者を増やす必要がある。既に実施している在宅医療・介護支援機能の充実を図りながら、効率的な患者対応を行っていただきたい。

## 3 栗駒病院の取り組みに対する意見等

医師体制は、常勤医師が2人に減少し、地域の開業医の先生方にも当直の協力をいただきながら、とても頑張られている。

医療スタッフの高齢化も進んでおり、職員給与費比率は70%台の高い水準のまま推移している。

一日平均入院患者数は、前年度と比較して0.1人増の49.8人であり、病床利用率

は66%台で前年度から推移しているが、入院収益は、前年度と比較して445万円の増となった。しかし、純損失額は、前年度と比較し2千452万円増加し、1億3千百万円となり、75床規模ではかなり大きな損失額となっている。これは、構造的な問題で現場の努力だけで改善するのは、かなり難しいものと推察される。

地域の実情を踏まえ、栗駒病院が真に果たすべき役割を明確にし、将来的な病院のあり方を検討していく必要があると考える。

#### 4 総括

第三次経営健全化計画の4年目を迎え、病院事業として様々な増収、経費削減に取り組んでいるが、特に費用の面では、消費税の増税、人事院勧告のプラス改定や県立循環器・呼吸器病センターのスタッフ受け入れなどにより人件費が増加するなど、病院経営は非常に厳しい状況になっている。

栗原市の人口は、毎年約1千人ずつ減少しており、これから新たに入院患者や外来患者数を増やすことは困難と推察する。また、栗原市から病院事業への繰出金は、年間約18億円<sup>\*1</sup>が拠出されており、一般会計歳出の4%以上を占めている。これは、平成30年度決算における、仙台市を除く県平均2.7%と比較すると大きく上回っており、自主財源に乏しい財政構造となっている市財政にとって、大きな負担となっている点は否定できない。

合併特例措置の期間が終了し、地方交付税も減額となることから、将来的な市財政の悪化を招かないためにも、財政担当課と情報や認識を共有する必要がある。

収入が限られる中での経費削減には、構造上の様々な問題があるものの、3病院で連携を図り、病院の機能分担などの合理化を行いながら、無駄な経費を削減するため、職員全員が同じ方向を向いて一丸となって知恵を絞り、改善に取り組んでいくことが非常に重要であると提言する。

---

<sup>\*1</sup> 地方公営企業法に基づく負担区分による栗原市一般会計から病院事業会計への繰出金18億5千万円の内訳は、収益的収入に12億9千700万円（医師確保対策や救急医療の確保に要する経費等に対するもの）、資本的収入に5億5千300万円（病院の建設改良に要する経費等に対するもの）となっている。

# 資 料

各委員からの意見、要望、提言

**【栗原中央病院】**

- 循環器内科の先生方が充実して、全体的に医師も増えてきているが、実際には救急車の受け入れや、急患の受け入れ数がぐんぐん増えるというようには、なかなかうまくいかないのは、地域の事情であると感じた。
- 救急車受け入れ人数が、2千人を超えていることで、少ないスタッフのなかで非常に頑張られており、断らない救急ということで、地元の方々からの信頼が厚いのではないかと思う。
- 病床利用率は、計画値と比較すると大幅に低くなっている。新型コロナウイルスの影響もあると思うが、目標の80%以上の水準からほど遠いような状況があるので、病床利用率の向上に向けた取り組みが、これからカギになっていくと思う。
- 給与費の増額で職員移行に伴う負担金は今期一過性のものになるので、会計的には「過去勤務費用」に該当する給与の増加、負担金の増のため、特別損失に計上される。

**【若柳病院】**

- 人件費比率が上がっていますが、常勤医師が4名になって、後半常勤医師がお休みなったことがあるとしても、それでも収入が増えきれないというのは難しい現状だと思う。
- 地域包括ケア病床の導入については、地域の患者さんにとって良いケアを提供できるので、本当に進めていただきたいと思う。
- 今後、人口減少の時代で患者数の増加というのは、それほど見込めないと思われる。そうしたときに、大事になってくるのが診療単価の増加というところの取り組みになることから、診療報酬の施設基準の見直しをかけて、高い点数を取るという取り組みが行われたことは評価できる。



### 【栗駒病院】

- 70%台の人件費比率がずっと続いているので、非常に厳しいと思う。
- ある意味安定して1億3千万の純損失となっておりますが、構造的な問題で現場の努力だけでは、なかなか難しいなと感じた。
- 介護医療院への移行を検討しているということですが、そうすると看護師に少し余剰が出ると思うので、訪問看護などを検討してはどうか。

### 【全体】

- 栗原市の人口は毎年約1千人減っており、新規の入院患者や外来患者を増やすということは難しく、人口減から考えるとやむを得ないと考える。
- 地方交付税が減ってきており、栗原市の財政もこれから厳しくなってくることは見えている。いろんなことに取り組んで、小さなことから、みなさん本当に頑張っているなと思いますし、これからも続けていただきたい。
- 3病院の構造的なところは、損益分岐点図表に集約されており、例えば栗原中央病院の損益分岐点となる病床利用率を単純に計算すると76.2%となる。限界利益率は3病院とも、71%、75%、70%とあまり変わりがない。構造的に、損益分岐点まで到達するのは、なかなか厳しい状況にある。
- 一般的に損益分岐点売上と実際の売上の差額の部分というのは、病床利用率の差額分に繋がってくるので、そういう見方をした場合に、損益分岐点に到達するには、病床利用率の増加と合わせて固定経費の削減が必要となる。
- 病床利用率などの計画値と実績値の乖離が大きい。計画値に近づけるために「何をやるのか」という対策のところも、もやもやとしている。近づけるために何をやるべきか、分析をしっかりと行い、職員全員が一丸となって同じ方向を向いて、体制改善を行うべきと考える。

令和元年度重点取組事項に係る自己点検・評価

病院名	栗原中央病院
-----	--------

1 病院の果たすべき役割（経営方針）

地域の中核病院として、高度医療や二次救急医療の役割を担い、急性期医療を中心に小児から成人・高齢者に至るまで、幅広い年代層への医療の提供、また、栗原地域の災害時における災害拠点病院としての機能、さらに、基幹型臨床研修指定病院としての役割を担っています。

また、市民が必要な時に“安全”で“安心”できる医療を提供できるように努めるとともに、市内一次医療機関や近隣医療機関との病病連携・病診連携を図り、市民に質の高い適切な医療を安定的に提供します。

2 取組実績に対する点検

(1) 医療機能確保の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
急性期医療及び回復期医療の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急車受入人数 2,212 人(前年度比 54 人増)</li> <li>救急患者受入 5,841 人(前年度比 184 人増)</li> <li>地域包括ケア病棟の開設(H27.9～)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療機器の整備・充実</li> <li>救急医療体制の充実</li> </ul>
医療スタッフの招へい	<ul style="list-style-type: none"> <li>皮膚科医師が 1 名減となったものの、内科医師と放射線科医師各 1 人が増となり、年度当初の常勤医師数は 28 人で、前年度比 1 人増となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続的な医師の招へい活動 (R1 末: 27 人⇒R2 当初:33 人)</li> <li>初期臨床研修医の増 (R1 末: 7 人⇒R2 当初:10 人)</li> </ul>
地域医療機関との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>在宅療養後方支援病院登録患者 115 人</li> <li>地域連携のつどい「よらいん」4 回 485 人</li> <li>感染症勉強会 4 回 418 人 (新規)</li> <li>紹介患者数 7,395 人 (前年度比 148 人増)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内診療所等との連携強化の取り組み (広報誌や研修会等の充実)</li> <li>定期的な他医療機関訪問</li> </ul>
新型コロナウイルス感染症対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>発熱外来の設置、疑似症患者の入院</li> <li>外来トリアージによる来院者の検温・問診</li> <li>感染対策ワーキンググループ等の設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>療養病床を空け、コロナ陽性患者の入院対応のための準備</li> </ul>

(2) 財務の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
収入増加・確保対策 (金額は対前年度比較)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種指導管理料増加額 H28: 28,449 千円</li> <li>H29: 9,893 千円 H30: 18,834 千円</li> <li>R1: 19,535 千円</li> <li>紹介患者増加のため市内外医療機関への訪問 (特に循環器内科)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>紹介患者、救急患者の受入増加</li> <li>指導料等算定状況チェック強化</li> <li>認知症加算等の新たな加算取得</li> <li>急性期入院料 1 の維持</li> <li>緩和ケア加算取得への取り組み</li> </ul>
経費削減・抑制対策 (金額は価格交渉による減額)	<ul style="list-style-type: none"> <li>委託料等の削減 H28: △30,933 千円</li> <li>H29: △3,316 千円 H30: △1,044 千円</li> <li>R1: △8,826 千円</li> <li>診療材料医薬品抑制 H28: △6,765 千円</li> <li>H29: △2,216 千円 H30: △2,095 千円</li> <li>R1: △15,458 千円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>R2 年度以降も継続して経費削減抑制に取り組む</li> <li>病床再編と人件費減に対する取り組み</li> </ul>

(3) 業務プロセスの視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
医療の標準化とチーム医療の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>結核地域連携カンファレンスを開催 (毎月)</li> <li>感染対策チーム、糖尿病チーム NST 活動</li> <li>クリニカルパスの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>呼吸ケアチーム、摂食嚥下チームの立ち上げと加算取得</li> </ul>

医療の質と安全の向上	・医療安全対策チームによる職場ラウンド(毎週) ・全自病医療の質公表事業に参加 (H28年～)	・医療安全の推進・徹底
------------	--	-------------

(4) 学習と成長の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
職員のスキルアップ	・研修の充実、専門医等の資格取得やスキルアップの支援 ・緩和ケア認定看護師資格の取得	・計画的、体系的な人材育成

3 収支計画及び決算 (収益的収支)

(単位：千円)

区分	H29年度		H30年度		R01年度	
	計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
医業収益	4,252,945	4,178,778	4,265,550	4,431,033	4,684,746	4,478,695
医業外収益	865,528	874,173	818,110	726,346	452,476	1,015,016
特別利益	0	0	0	0	0	3,767
合 計	5,118,473	5,052,951	5,083,660	5,157,379	5,137,222	5,497,478
医業費用	4,889,899	4,912,267	4,863,470	5,041,156	4,844,946	5,650,025
医業外費用	281,578	285,401	272,166	285,031	264,598	289,574
特別損失	1,100	7,998	1,100	7,269	1,100	1,380
合 計	5,172,577	5,205,666	5,136,736	5,333,456	5,110,644	5,940,979
当年度経常損益	△53,004	△144,717	△51,976	△168,808	27,678	△445,888
当年度純損益	△54,104	△152,715	△53,076	△176,077	26,578	△443,501

4 主な経営指標及び実績

(単位：%)

区分	H28年度		H29年度		H30年度		R01年度		
	計画値	実績	計画値	実績	計画値	実績	計画値	実績	
経常収支比率	95.3	97.1	99.0	97.2	99.0	96.8	100.5	92.5	
病床利用率	65.7	63.1	73.3	66.1	76.7	68.5	81.0	61.6	
内 訳	一般病床	67.2	66.3	74.0	68.3	76.4	68.8	81.2	64.8
	療養病床	58.0	47.1	70.0	55.1	78.0	66.9	80.0	62.3
	結核病床※	-	-	-	-	-	-	-	32.0
職員給与費比率	56.2	56.1	54.9	54.1	54.7	52.8	50.7	57.8	
医業収支比率	83.6	84.6	87.0	85.1	87.7	87.9	96.7	79.3	

※結核病床に感染症病床1床を含む。

5 自己評価 (病院総括)

4月から県内の結核患者の受け入れ先として、29床で感染制御センター(2階東病棟)の運用を開始した。初年度の感染制御センターの病床利用率は32.0%で、病棟運営に係る赤字補填は県負担となっている。

年度終盤のコロナ禍等により1月から3月までの1日平均外来患者数は19.4人減、新入院患者数は延べ86人減となり、結核を除く年度新入院患者数は3,976人で前年度と比較し66人減となった。しかし循環器内科の強化と「断らない救急」の実践等により、地域住民の安心感は年々増していると感じている。

収支面では、入院収益は患者数の減少から感染制御センターを除き前年度比較で93,664千円の減、外来収益は58,171千円の増となったものの、給与費の大幅な増額、他会計補助金及び負担金の減額、新型コロナウイルス感染症の影響などから、当年度純損失は443,501千円となり、感染制御センターを除き前年度比で281,427千円の損失増となった。

令和元年度重点取組事項に係る自己点検・評価

病院名	若柳病院
-----	------

1 病院の果たすべき役割（経営方針）

「生活医療圏」の中での医療の提供、そのための「地域密着型慢性期医療」の基幹病院として、また、在宅医療・訪問看護・介護支援の拠点として、中核病院・地域診療所等との連携を図りながら、初期診療における総合的な判断と診療を行い、救急については一次救急はもとより、可能な限りの二次救急を行い、地域住民に信頼される病院を目指します。

2 取組実績に対する点検

(1) 医療機能確保の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
地域医療機関との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療連携室が入退院支援にかかわった実績は831人、延べ4,007件であった。</li> <li>・栗原中央病院への紹介患者数は165件で前年度より7件減少した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療連携室は連携室長、社会福祉士、非常勤の看護師が1名で退院支援が主である。今後、入院支援も充実させる必要がある。</li> </ul>
医療スタッフの招へい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整形外科医師を招へいし、常勤医師4名となった。また、医師の負担軽減のため電子カルテ及び医療クラークの導入を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常勤医師の高齢化が進行していることから地域医療を担う若手・中堅医師の招へいを継続的に進める。</li> </ul>

(2) 財務の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
収入増加・確保対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急性期一般入院料5から4へ変更。R1年10月～R2年3月 1,003千円の増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急性期看護補助体制加算 (R2.7)</li> <li>・地域包括ケア病棟の導入 (R2.8)</li> </ul>
経費削減・抑制対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子カルテの導入により事務の合理化、職員の負担軽減、印刷物の削減。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開院から15年目を迎え長期的に使用している医療機器の更新や施設設備の計画修繕が必要となっている。</li> </ul>

(3) 業務プロセスの視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
地域医療研修受入施設として研修内容の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度の研修受入実績 栗原中央病院研修医 2人 仙台医療センター研修医 1人 リハビリテーション科実習生 12人 中高生の看護師体験学習 18人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問診療・訪問看護・訪問リハビリ、在宅患者訪問褥瘡管理等の研修内容の充実を図り、仙台医療センターや栗原中央病院等の研修医の受け入れを行う。また、専門学校の実習生、中高生の体験学習の受入も継続する。</li> </ul>

(4) 学習と成長の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
専門性の向上(職員のレベルアップ)を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師学会研修会出席延べ 2人</li> <li>・看護師研修会延べ 113人</li> <li>・ファーストレベル研修 1人</li> <li>・コメディカル研修会延べ 17人</li> <li>・院内研修会出席延べ 592人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的に研修会に参加することにより、職員の専門性の向上とレベルアップを図る。</li> </ul>

3 収支計画及び決算(収益的収支)

(単位:千円)

区分	H29年度		H30年度		R01年度	
	計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
医業収益	1,554,601	1,474,355	1,557,348	1,362,774	1,573,689	1,340,244
医業外収益	267,227	270,165	270,188	264,566	253,282	260,074
特別利益	0	0	0	0	0	1,124
合 計	1,821,828	1,744,520	1,827,536	1,627,340	1,826,971	1,601,442
医業費用	1,721,139	1,677,100	1,718,512	1,689,933	1,700,749	1,728,265
医業外費用	108,177	103,319	109,218	102,447	115,671	126,303
特別損失	780	3,079	780	414	780	749
合 計	1,830,096	1,783,498	1,828,510	1,792,794	1,817,200	1,855,317
当年度経常損益	△7,488	△35,899	△194	△165,040	10,551	△254,250
当年度純損益	△8,268	△38,978	△974	△165,454	9,771	△253,875

4 主な経営指標及び実績

(単位:%)

	H28年度		H29年度		H30年度		R01年度	
	計画値	実 績	計画値	実 績	計画値	実 績	計画値	実 績
経常収支比率	99.4	103.6	99.6	98.0	100.0	90.8	100.6	86.3
病床利用率	75.0	77.5	76.7	73.3	82.5	64.4	83.3	65.8
内 一般病床	71.1	74.6	73.3	70.5	82.2	61.5	83.3	62.4
内 療養病床	86.7	86.1	86.7	81.7	83.3	73.3	83.3	75.9
職員給与費比率	55.8	54.6	55.7	58.3	55.1	61.1	54.5	65.1
医業収支比率	89.2	92.9	90.3	87.9	90.6	80.6	92.5	77.5

5 自己評価(病院総括)

令和元年度は整形外科医師が加わったことにより、常勤医師4名体制となりましたが、後半には常勤医師の病休等がありました。

患者数は昨年度と比較すると入院で683人の増で病床利用率が65.8%となり1.4%の増、外来は2,348人の減で1日平均患者数で7.2人の減となった。

医業収益は計画額と比較して233,445千円の減、当年度純損失は253,875千円となり、前年度比88,421千円の損失の増となった。

また、平成30年度の今後の課題・取組等に挙げていた電子カルテの導入及び医療クラークの配置(令和2年1月)により診療録管理体制の整備を行いました。

令和2年度は地域包括ケア病棟の導入を行い、更に在宅医療・介護支援機能の充実を図ります。



令和元年度重点取組事項に係る自己点検・評価

病院名	栗駒病院
-----	------

1 病院の果たすべき役割（経営方針）

地域に密着した「地域密着型慢性期医療」の基幹病院として、近隣の医療機関・保健福祉施設等との連携と機能分担を図り、良質な医療を提供し、地域住民の健康を守ることに全力を尽くし、信頼される病院を目指します。

また、「和顔愛語」「恕」の精神で多くの住民から愛される病院を目指します。

2 取組実績に対する点検

(1) 医療機能確保の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
地域医療機関との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の開業医との連携から、月2回の当直や週2回の診療協力をいただいている。</li> <li>栗原中央病院への紹介件数は258件となり、前年より33件増加した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>栗原中央病院や地域の開業医との連携を強化していく。</li> </ul>
介護施設との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>入院患者は前年度と比較すると延べ101人の増となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の高齢化率が高く、在院日数も長くなっているため、介護施設と連携を図りながら、病床機能の見直しを検討する。</li> </ul>
病床の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後の医師数の見直しに応じた病床機能及び適正な病床数（1フロア化）を検討。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全病床について療養病床への移行を検討する。</li> </ul>
医療スタッフの招へい	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続的に医師招へい活動を行っているが、常勤医師数は3人から2人に減少している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>常勤医師の招へいが進まない場合は、現在の医師体制で対応可能な病床の種類や運営を検討する必要がある。</li> </ul>

(2) 財務の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
収入増加・確保対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>R2年1月から地域包括ケア病床について、看護職員配置加算(1日150点)算定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年4月から地域包括ケア病床が算定出来なくなる</li> </ul>
経費削減・抑制対策 (金額は対前年度比較)	<ul style="list-style-type: none"> <li>節約意識による経費削減 賃借料 H28: 3,585千円、H29: 752千円 H30: △751千円、R01: △2,123千円</li> <li>故障した蛍光灯をLED照明への切替による電気料の節減(H28～)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き費用削減に取り組む。</li> <li>24時間点灯している部署を重点に故障した器具から随時LED照明に交換する。(R2年度に実施予定)</li> </ul>

(3) 業務プロセスの視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
医療安全の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>リスクマネジメント委員会 12回</li> <li>リスクカンファレンス 30回</li> <li>医療機器安全管理委員会 12回</li> <li>院内研修 49回、延べ 1,044人</li> <li>院外研修 52回、延べ 118人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種研修会の伝達研修や院内研修の充実を図り、医療事故防止に努める。</li> </ul>
地域医療研修及び中高生の体験学習受入	<ul style="list-style-type: none"> <li>仙台医療センター研修医 1人</li> <li>中学校生の福祉体験学習 11人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続して研修の受入を実施する。</li> </ul>

(4) 学習と成長の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
専門性の向上（職員のレベルアップ）を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国保学会発表 1人</li> <li>・宮城看護学会発表 1人</li> <li>・ファーストレベル研修 1人</li> <li>・看護研究指導者研修 1人</li> <li>・医療安全管理者育成研修 1人</li> <li>・認知症対応力向上研修 1人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学会発表及び各種研修への参加を継続し、職員の専門性の向上とレベルアップを図る。</li> </ul>

3 収支計画及び決算（収益的収支）

（単位：千円）

区分	H29年度		H30年度		R01年度	
	計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
医業収益	679,663	581,960	722,875	606,198	724,123	608,433
医業外収益	212,662	213,482	239,149	218,461	271,818	194,873
特別利益	0	0	0	0	0	0
合 計	892,325	795,442	962,024	824,659	995,941	803,306
医業費用	940,278	894,710	941,640	890,656	939,430	887,700
医業外費用	42,926	40,281	44,718	41,064	47,181	42,601
特別損失	850	124	850	15	850	4,603
合 計	984,054	935,115	987,208	931,735	987,461	934,904
当年度経常損益	△90,879	△139,549	△24,334	△107,061	9,330	△126,995
当年度純損益	△91,729	△139,673	△25,184	△107,076	8,480	△131,598

4 主な経営指標及び実績

（単位：%）

	H28年度		H29年度		H30年度		R01年度	
	計画値	実 績	計画値	実 績	計画値	実 績	計画値	実 績
経常収支比率	89.8	87.6	90.8	85.1	97.5	88.5	100.9	86.3
病床利用率	70.7	63.2	74.7	62.9	80.0	66.2	80.0	66.4
内								
一般病床	68.9	58.0	71.1	53.9	80.0	60.2	80.0	63.5
療養病床	73.3	70.9	80.0	76.3	80.0	75.2	80.0	70.7
職員給与費比率	77.4	81.0	76.1	81.4	70.9	77.0	70.8	76.3
医業収支比率	71.3	67.7	72.3	65.0	80.0	68.1	77.1	68.5

5 自己評価（病院総括）

令和元年度の延患者数は前年度と比較すると入院では101人の増、外来で121人の増という結果になった。

医業収益は計画額と比較して115,690千円の減、当年度純損失は131,598千円となり、前年度比24,522千円の損失の増となった。入院収益は前年度と比較して4,449千円の増となったが外来収益は2,937千円の減となった。

また、3月は新型コロナウイルス感染対策のため、外来患者に対し電話診療により症状が安定している患者は1か月程度の処方を行うなどの緊急的な対応を行った。

地域の人口減少が進んでいるものの、地域で唯一の入院施設を持つ医療機関として、また、地域密着型慢性期医療の基幹病院として、地域のニーズに合った医療提供体制の構築を検討したい。

## 別紙1 市立3病院収支計画及び決算

## 1 栗原中央病院（結核病棟分含む）

（単位：千円）

区分	年度	H29年度		H30年度		R01年度	
		計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
1 医業収益		4,252,945	4,178,778	4,265,550	4,431,033	5,122,528	4,478,695
(1) 入院収益		2,937,326	2,893,026	2,951,771	3,027,036	3,412,994	3,026,458
(2) 外来収益		999,833	962,503	1,002,008	1,046,194	1,080,432	1,104,365
(3) その他医業収益		142,636	150,099	147,575	170,573	464,906	160,642
(4) 他会計負担金		173,150	173,150	164,196	187,230	164,196	187,230
2 医業費用		4,889,899	4,912,267	4,863,470	5,041,156	5,347,700	5,650,025
(1) 給与費		2,334,823	2,259,974	2,334,823	2,338,992	2,564,491	2,590,390
(2) 材料費		688,629	798,797	688,995	830,458	734,221	860,655
(3) 経費		1,383,238	1,378,997	1,373,215	1,425,634	1,487,720	1,745,756
(4) 減価償却費		444,272	430,060	443,413	423,000	537,039	429,777
(5) 資産減耗費		24,301	32,486	3,843	9,412	3,843	8,610
(6) 研究研修費		14,636	11,953	19,181	13,660	20,386	14,837
医業損失／医業利益		△636,954	△733,489	△597,920	△610,123	△225,172	△1,171,330
3 医業外収益		865,528	874,173	818,110	726,346	532,809	1,015,016
(1) 受取利息配当金		1	2,513	1	5,321	1	60
(2) 他会計補助金		407,828	407,828	417,881	281,174	199,876	248,885
(3) 補助金		23,275	25,369	26,464	24,842	26,438	27,287
(4) 負担金交付金		330,820	330,317	264,291	296,321	120,303	288,149
(5) 長期前受金戻入		78,408	78,409	76,929	85,499	153,647	85,625
(6) その他医業外収益		25,196	29,737	32,544	33,189	32,544	365,010
(7) 雑収益		0	0	0	0	0	0
4 医業外費用		281,578	285,401	272,166	285,031	279,959	289,574
(1) 支払利息及び企業債取扱諸費		134,162	132,964	126,728	123,577	118,937	115,182
(2) 繰延勘定償却		0	0	0	0	0	0
(3) 長期前払消費税償却		0	0	0	0	0	0
(4) 雑支出		147,416	152,437	145,438	161,454	161,022	174,392
経常利益／経常損失		△53,004	△144,717	△51,976	△168,808	27,678	△445,888
5 特別利益		0	0	0	0	0	3,767
(1) その他特別利益		0	0	0	0	0	3,767
6 特別損失		1,100	7,998	1,100	7,269	1,100	1,380
(1) 過年度損益修正損		600	350	600	1,160	600	878
(2) その他特別損失		500	7,648	500	6,109	500	502
(3) 臨時損失		0	0	0	0	0	0
当年度純利益／純損失		△54,104	△152,715	△53,076	△176,077	26,578	△443,501
前年度繰越利益剰余金／欠損金		△6,152,656	△6,050,944	△6,206,760	△6,196,059	△6,259,836	△6,366,136
その他未処分利益剰余金変動額							
当年度未処分利益剰余金／未処理欠損金		△6,206,760	△6,203,659	△6,259,836	△6,372,136	△6,233,258	△6,809,637

※端数については、四捨五入のため合計が合わない箇所があります。

※地方公営企業決算状況調査より。



## 1 栗原中央病院 結核病棟分【別掲】

(単位：千円)

区分	年度	H29年度		H30年度		R01年度	
		計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
1 医業収益		0	0	0	0	437,782	93,132
(1) 入院収益						120,782	93,086
(2) 外来収益						0	0
(3) その他医業収益						317,000	46
(4) 他会計負担金						0	0
2 医業費用		0	0	0	0	502,754	265,667
(1) 給与費						190,000	196,780
(2) 材料費						40,226	7,787
(3) 経費						190,990	60,155
(4) 減価償却費						80,333	0
(5) 資産減耗費						0	0
(6) 研究研修費						1,205	945
医業損失/医業利益		0	0	0	0	△64,972	△172,535
3 医業外収益		0	0	0	0	80,333	186,847
(1) 受取利息配当金						0	0
(2) 他会計補助金						0	0
(3) 補助金						0	578
(4) 負担金交付金						0	49,975
(5) 長期前受金戻入						80,333	0
(6) その他医業外収益						0	136,294
(7) 雑収益						0	0
4 医業外費用		0	0	0	0	15,361	309
(1) 支払利息及び企業債取扱諸費						0	0
(2) 繰延勘定償却						0	0
(3) 長期前払消費税償却						0	0
(4) 雑支出						15,361	309
経常利益/経常損失		0	0	0	0	0	14,003
5 特別利益		0	0	0	0	0	0
(1) その他特別利益						0	0
6 特別損失		0	0	0	0	0	0
(1) 過年度損益修正損						0	0
(2) その他特別損失						0	0
(3) 臨時損失						0	0

## 2 若柳病院

(単位：千円)

区分	年度	H29年度		H30年度		R01年度	
		計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
1 医業収益		1,554,601	1,474,355	1,557,348	1,362,774	1,573,689	1,340,244
(1) 入院収益		973,353	894,652	988,920	779,688	1,003,004	766,861
(2) 外来収益		467,699	454,894	462,534	463,394	464,791	453,362
(3) その他医業収益		40,163	51,423	40,270	49,340	40,270	49,669
(4) 他会計負担金		73,386	73,386	65,624	70,352	65,624	70,352
2 医業費用		1,721,139	1,677,100	1,718,512	1,689,933	1,700,749	1,728,265
(1) 給与費		865,209	859,577	858,434	832,722	858,434	873,019
(2) 材料費		225,038	185,816	218,259	197,468	218,259	181,853
(3) 経費		509,253	509,764	516,781	536,965	491,781	538,987
(4) 減価償却費		117,650	117,632	119,091	117,475	126,328	114,330
(5) 資産減耗費		1,441	1,587	1,612	2,803	1,612	17,712
(6) 研究研修費		2,548	2,724	4,335	2,500	4,335	2,364
医業損失／医業利益		△166,538	△202,745	△161,164	△327,159	△127,060	△388,021
3 医業外収益		267,227	270,165	270,188	264,566	253,282	260,074
(1) 受取利息配当金		23	947	60	2,059	60	2
(2) 他会計補助金		113,829	113,829	107,699	106,064	82,699	104,406
(3) 補助金		1,228	1,340	1,228	1,310	1,228	1,299
(4) 負担金交付金		146,654	146,810	156,347	146,228	164,937	145,375
(5) 長期前受金戻入		2,883	2,884	2,757	3,282	2,261	3,029
(6) その他医業外収益		2,610	4,355	2,097	5,623	2,097	5,963
(7) 雑収益		0	0	0	0	0	0
4 医業外費用		108,177	103,319	109,218	102,447	115,671	126,303
(1) 支払利息及び企業債取扱諸費		54,167	54,091	51,579	50,954	49,023	48,231
(2) 繰延勘定償却		0	0	0	0	0	0
(3) 長期前払消費税償却		8,251	8,251	8,251	8,251	8,251	8,251
(4) 雑支出		45,759	40,977	49,388	43,242	58,397	69,821
経常利益／経常損失		△7,488	△35,899	△194	△165,040	10,551	△254,250
5 特別利益		0	0	0	0	0	1,124
(1) その他特別利益		0	0	0	0	0	1,124
6 特別損失		780	3,079	780	414	780	749
(1) 過年度損益修正損		680	3,077	680	414	680	718
(2) その他特別損失		100	2	100	0	100	31
(3) 臨時損失		0		0	0	0	0
当年度純利益／純損失		△8,268	△38,978	△974	△165,454	9,771	△253,875
前年度繰越利益剰余金／欠損金		△447,593	△374,399	△455,861	△413,377	△456,835	△578,831
その他未処分利益剰余金変動額							
当年度未処分利益剰余金／未処理欠損金		△455,861	△413,377	△456,835	△578,831	△447,064	△832,706

※端数については、四捨五入のため合計が合わない箇所があります。

※地方公営企業決算状況調査より。

## 3 栗駒病院

(単位：千円)

区分	年度	H29年度		H30年度		R01年度	
		計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
1	医業収益	679,663	581,960	722,875	606,198	724,123	608,433
	(1) 入院収益	425,761	347,937	455,304	378,783	456,552	383,232
	(2) 外来収益	167,933	151,116	183,558	147,073	183,558	144,136
	(3) その他医業収益	23,051	19,989	21,474	18,334	21,474	19,057
	(4) 他会計負担金	62,918	62,918	62,539	62,008	62,539	62,008
2	医業費用	940,278	894,710	941,640	890,656	939,430	887,700
	(1) 給与費	516,977	473,749	512,370	466,538	512,370	464,354
	(2) 材料費	73,209	59,000	80,955	59,775	80,955	63,266
	(3) 経費	277,921	290,918	274,468	294,324	274,468	292,576
	(4) 減価償却費	69,664	69,614	68,403	67,968	66,193	64,212
	(5) 資産減耗費	782	646	2,601	924	2,601	2,367
	(6) 研究研修費	1,725	783	2,843	1,127	2,843	925
	医業損失／医業利益	△260,615	△312,750	△218,765	△284,458	△215,307	△279,267
3	医業外収益	212,662	213,482	239,149	218,461	271,818	194,873
	(1) 受取利息配当金	11	591	10	1,285	10	1
	(2) 他会計補助金	44,698	44,698	49,300	53,800	65,674	53,800
	(3) 補助金	0	0	0	0	0	0
	(4) 負担金交付金	163,182	163,279	184,195	158,782	200,842	136,324
	(5) 長期前受金戻入	3,296	3,298	2,920	2,964	2,568	2,878
	(6) その他医業外収益	1,475	1,616	2,724	1,630	2,724	1,870
	(7) 雑収益	0	0	0	0	0	0
4	医業外費用	42,926	40,281	44,718	41,064	47,181	42,601
	(1) 支払利息及び企業債取扱諸費	18,562	18,433	17,835	17,416	17,083	16,664
	(2) 繰延勘定償却	0	0	0	0	0	0
	(3) 長期前払消費税償却	3,999	3,999	3,999	3,999	3,999	3,999
	(4) 雑支出	20,365	17,849	22,884	19,649	26,099	21,938
	経常利益／経常損失	△90,879	△139,549	△24,334	△107,061	9,330	△126,995
5	特別利益	0	0	0	0	0	0
	(1) その他特別利益	0	0	0	0	0	0
6	特別損失	850	124	850	15	850	4,603
	(1) 過年度損益修正損	800	124	800	15	800	13
	(2) その他特別損失	50	0	50	0	50	0
	(3) 臨時損失	0	0	0	0	0	4,590
	当年度純利益／純損失	△91,729	△139,673	△25,184	△107,076	8,480	△131,598
	前年度繰越利益剰余金／欠損金	△310,978	△326,346	△402,707	△466,019	△427,891	△573,095
	その他未処分利益剰余金変動額						
	当年度未処分利益剰余金／未処理欠損金	△402,707	△466,019	△427,891	△573,095	△419,411	△704,693

※端数については、四捨五入のため合計が合わない箇所があります。

※地方公営企業決算状況調査より。

別紙2 市立3病院経営指標

1 栗原中央病院の経営指標及び実績

経営指標項目		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
①病院機能評価	計画						
	実績						
②1日平均入院患者数	計画	240.0人	197.0人	220.0人	230.0人	243.0人	
	実績	189.3人	189.3人	198.2人	205.5人	193.2人	
③1日平均外来患者数	計画	450.0人	375.0人	391.0人	392.0人	410.0人	
	実績	371.4人	364.8人	383.3人	407.0人	422.8人	
④紹介率	計画	—	—	—	—	—	
	実績	61.1%	60.5%	63.0%	62.5%	66.8%	
⑤逆紹介率	計画	—	—	—	—	—	
	実績	43.6%	44.3%	41.0%	35.9%	39.6%	
⑥医業収支比率	計画	94.5%	83.6%	87.0%	87.7%	96.7%	
	実績	83.2%	84.6%	85.1%	87.9%	79.3%	
⑦病床利用率	計画	80.0%	65.7%	73.3%	76.7%	81.0%	
	実績	63.1%	63.1%	66.1%	68.5%	61.6%	
	実績 (結核除く)	—	—	—	—	64.4%	
内訳	一般病床	計画	80.0%	67.2%	74.0%	76.4%	81.2%
		実績	64.2%	66.3%	68.3%	68.8%	64.8%
	うち地域包括ケア病床	実績	55.8%	60.5%	66.3%	73.1%	66.0%
	療養病床	計画	80.0%	58.0%	70.0%	78.0%	80.0%
		実績	57.4%	47.1%	55.1%	66.9%	62.3%
結核病床	実績	—	—	—	—	32.0%	
⑧ 平均入院単価	計画	34,280円	36,512円	36,579円	35,161円	37,017円	
	実績	35,943円	36,769円	39,981円	40,357円	40,830円	
内訳	一般病床	計画	37,455円	39,957円	40,368円	38,950円	41,039円
		実績	39,445円	39,765円	44,152円	45,219円	47,081円
	うち地域包括ケア病床	実績	31,172円	30,917円	31,802円	30,628円	30,650円
	療養病床	計画	15,632円	16,554円	16,554円	16,605円	16,605円
実績		16,354円	15,672円	14,110円	15,363円	16,883円	
⑨平均外来単価	計画	8,280円	10,480円	10,480円	10,476円	10,800円	
	実績	10,779円	10,346円	10,291円	10,534円	10,883円	
⑩経常収支比率	計画	102.2%	95.3%	99.0%	99.0%	100.5%	
	実績	92.6%	97.1%	97.2%	96.8%	92.5%	
⑪平均在院日数 (一般病床)	計画	—	—	—	—	—	
	実績	17.2日	17.5日	14.9日	13.9日	13.3日	

※平均在院日数(一般病床)は、地域包括ケア病床(50床)を除いて算出した数値

栗原中央病院・結核病棟分【別掲】

経営指標項目		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
①1日平均入院患者数	計画	—	—	—	—	12.0人
	実績	—	—	—	—	9.3人
②平均入院単価	計画	—	—	—	—	27,576円
	実績	—	—	—	—	27,433円

2 若柳病院の経営指標及び実績

経営指標項目		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
①病院機能評価	計画						
	実績						
②1日平均入院患者数	計画	102.2人	90.0人	92.0人	99.0人	100.0人	
	実績	89.4人	93.0人	88.0人	77.3人	79.0人	
③1日平均外来患者数	計画	218.2人	197.0人	200.0人	205.0人	206.0人	
	実績	200.2人	196.4人	189.7人	173.8人	167.1人	
④紹介率	計画	—	—	—	—	—	
	実績	43.6%	42.7%	46.6%	43.7%	47.4%	
⑤逆紹介率	計画	—	—	—	—	—	
	実績	39.5%	38.0%	47.2%	43.7%	42.6%	
⑥医業収支比率	計画	95.9%	89.2%	90.3%	90.6%	92.5%	
	実績	89.1%	92.9%	87.9%	80.6%	77.5%	
⑦病床利用率	計画	85.2%	75.0%	76.7%	82.5%	83.3%	
	実績	74.6%	77.5%	73.3%	64.4%	65.8%	
内訳	一般病床	計画	83.3%	71.1%	73.3%	82.2%	83.3%
		実績	74.9%	74.6%	70.5%	61.5%	62.4%
	うち地域包括ケア病床	実績	—	—	—	—	—
		療養病床	計画	90.7%	86.7%	86.7%	83.3%
実績	73.5%	86.1%	81.7%	73.3%	75.9%		
⑧ 平均入院単価	計画	25,525円	28,885円	28,986円	27,367円	27,404円	
	実績	26,708円	27,847円	27,861円	27,633円	26,536円	
内訳	一般病床	計画	29,140円	33,546円	33,546円	31,077円	31,077円
		実績	30,268円	32,078円	32,397円	31,317円	30,248円
	うち地域包括ケア病床	実績	—	—	—	—	—
		療養病床	計画	15,557円	17,411円	17,411円	16,387円
実績	15,822円	16,844円	16,108円	18,363円	17,383円		
⑨平均外来単価	計画	8,573円	9,584円	9,584円	9,247円	9,247円	
	実績	9,098円	9,717円	9,830円	10,927円	11,306円	
⑩経常収支比率	計画	100.3%	99.4%	99.6%	100.0%	100.6%	
	実績	94.8%	103.6%	98.0%	90.8%	86.3%	
⑪平均在院日数 (一般病床)	計画	—	—	—	—	—	
	実績	19.2日	19.0日	19.4日	18.3日	19.6日	

3 栗駒病院の経営指標及び実績

経営指標項目		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
①病院機能評価	計画						
	実績						
②1日平均入院患者数	計画	64.6人	53.0人	56.0人	60.0人	60.0人	
	実績	55.3人	47.4人	47.2人	49.7人	49.8人	
③1日平均外来患者数	計画	134.6人	96.0人	98.0人	110.0人	110.0人	
	実績	102.6人	94.8人	87.2人	85.4人	87.3人	
④紹介率	計画	—	—	—	—	—	
	実績	26.3%	18.9%	19.6%	24.3%	26.4%	
⑤逆紹介率	計画	—	—	—	—	—	
	実績	32.3%	15.6%	15.9%	32.2%	12.1%	
⑥医業収支比率	計画	90.4%	71.3%	72.3%	76.8%	77.1%	
	実績	75.8%	67.7%	65.0%	68.1%	68.5%	
⑦病床利用率	計画	86.1%	70.7%	74.7%	80.0%	80.0%	
	実績	73.7%	63.2%	62.9%	66.2%	66.4%	
内訳	一般病床	計画	88.4%	68.9%	71.1%	80.0%	80.0%
		実績	72.2%	58.0%	53.9%	60.2%	63.5%
	うち地域包括ケア病床	実績	74.6%	34.8%	51.8%	50.3%	65.5%
		療養病床	計画	82.7%	73.3%	80.0%	80.0%
実績	75.9%		70.9%	76.3%	75.2%	70.7%	
⑧ 平均入院単価	計画	21,179円	21,064円	20,830円	20,790円	20,790円	
	実績	20,748円	20,329円	20,221円	20,897円	21,026円	
内訳	一般病床	計画	24,955円	25,913円	25,779円	25,057円	25,057円
		実績	25,023円	25,415円	25,967円	23,963円	26,005円
	うち地域包括ケア病床	実績	22,934円	23,300円	24,152円	23,636円	23,538円
		療養病床	計画	15,119円	14,231円	14,231円	14,390円
実績	14,651円		14,084円	14,126円	17,211円	14,319円	
⑨平均外来単価	計画	6,175円	7,023円	7,023円	6,839円	6,839円	
	実績	6,702円	6,959円	7,100円	7,061円	6,880円	
⑩経常収支比率	計画	104.9%	89.8%	90.8%	97.5%	100.9%	
	実績	93.2%	87.6%	85.1%	88.5%	86.3%	
⑪平均在院日数 (一般病床)	計画	—	—	—	—	—	
	実績	19.9日	20.1日	18.0日	19.2日	19.6日	

※平均在院日数（一般病床）は、地域包括ケア病床（8床）を除いて算出した数値

## 栗原市立病院経営評価委員会委員名簿

任期：令和元年8月20日から令和4年3月31日

No	所 属	役職名	氏 名	備 考
1	山形市病院事業	管 理 者	平 川 秀 紀	○委員長 (山形県)
2	医療法人社団静実会 (ないとうクリニック)	副理事長	内 藤 広 郎	○副委員長 (仙台市)
3	一般社団法人 栗原市医師会	会 長	宮 城 島 堅	(栗原市)
4	仙台赤十字病院	事務部長	後 藤 孝 浩	(仙台市)
5	公益社団法人 宮城県看護協会	副 会 長	瀧 島 美 紀	(仙台市)
6	宮城県総務部市町村課	課 長	鈴 木 雄 貴	(仙台市)
7	矢川昌宏公認会計士事務所	代 表	矢 川 昌 宏	(石巻市)
8	太平洋工業株式会社 栗原工場・若柳工場 (栗原市行政改革懇話会委員)	工 場 長	山 田 賢	(栗原市)

(敬称略)

栗原市立病院経営評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 栗原市病院事業経営健全化計画（以下「計画」という。）に基づく取組状況、計画の見直し等に関する事項及び市立病院事業の経営全般について評価、検討等を実施し、市立病院事業の経営健全化等を図ることを目的として栗原市立病院経営評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 計画に基づく取組状況、計画の見直し等に関すること。
- (2) 市立病院の経営全般について評価、検討等を実施すること。
- (3) その他病院事業管理者が必要と認める事項

(組織)

第3条 委員会は、委員10人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、病院事業管理者が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 医療関係者
- (3) その他病院事業管理者が必要と認める者

3 委員の任期は3年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任されることができる。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に、委員長及び副委員長を置き、委員の互選により選任する。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。

2 委員会の会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

3 委員会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取等)

第6条 委員会は、必要があると認めるときは、議事に係る関係者又は専門家に対し、出席を求めて意見若しくは説明を聴き、又は必要な書類の提出を求めることができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、医療局医療管理課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この告示は、平成20年12月 1日から施行する。

平成24年 7月 1日 一部改正

(会議の招集の特例)

2 この告示の施行後、最初に開かれる会議は、第5条第1項の規定にかかわらず、病院事業管理者が招集する。



栗原市病院事業 医療局 医療管理課

〒987-2205

宮城県栗原市築館宮野中央三丁目1番地1

TEL 0228-21-5631 FAX 0228-21-5632

URL: <https://www.kuriharacity.jp/>

E-mail: [medical@kuriharacity.jp](mailto:medical@kuriharacity.jp)